

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 仙台市立郡山中学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☒ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他 (例: 小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒 982 - 0003  
仙台市太白区郡山5丁目10番1号  
E-mail Koriyama@sendai-c.ed.jp  
Website http://www.sendai-c.ed.jp/~koriyama/  
幼児児童生徒数 男子 293名 女子 288名 合計 581名  
幼児・児童・生徒の年齢 13歳 ~ 15歳

### 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「時代の変化に対応できる力と豊かな心を持ち、たくましく未来を拓く生徒の育成」を学校教育目標として、ESDを、変化の激しい未来に向けて自らの進むべき道を切り拓くことができる力と心を育む教育と捉え、ESDの実践を通して未来を拓く力の育成を目標とした。

具体的には、東日本大震災とその教訓を学び、復興を支援し、自らの地域の防災・減災を担い、そして地域に貢献する活動を柱に、①津波被災農家に弟子入り体験活動、②中学生が主導する住民参加型の地域防災訓練に係わる防災教育、③中学生による地域貢献に係わる活動、④いじめ抑止教育とマインドフルネスに係わる学習を行った。

#### ① 津波被災農家に弟子入り体験活動

同じ仙台市でも津波被害の有無により、被害と復興に大きな差異があることから、津波被害を受けていない本校では、毎年1年生が津波被害農家の講話を受けたり、農作業の支援をしたりなど、交流と支援を行っている。これらの体験学習から生徒は津波被害と復興、生き抜く力の糧を学んでいる。

## ② 中学生が主導する住民参加型の地域防災訓練に係わる防災教育

1・2年生と住民が避難者役となり、3年生が①避難所開設・運営、②救急救護、③活動取材、④炊き出し調理、⑤避難誘導、⑥対策本部の6班に分かれて地域防災訓練を開催している。さらに訓練後には、生徒会が消防署や気象台、大学教官による講演を開催している。これらの実践に加えて、全校生徒による避難訓練や下校訓練などを実施している。これらの体験学習により、防災・減災の知識やスキル、行動を取得し、地域防災力を担う人材が育まれ、生徒は“支えられる人”から“支える人。支え合う人”へと心と姿勢を変容させている。

## ③ 中学生による地域貢献に係わる活動

毎年、8月には全校生徒がそれぞれの地区に分かれ、住民や小学生と一緒に学区内地域清掃を行っている。吹奏楽部は市民センターや地域祭などで積極的に演奏を披露し、家庭部は幼児向け講座「つくって遊ぼう」、科学部は小学生向け「科学教室」を市民センターや児童館で年に数回開催している。さらに、本校学区内の3つの小学校が開催する防災訓練や運動会などの学校行事や地域行事などで自主的かつ積極的に奉仕活動を行っている。

## ④ いじめ抑止教育とマインドフルネスに係わる学習

仙台市内で自死事案が続き、本校においてもいじめ問題は最重要課題となっている。このため、本校では早稲田大学と共同研究を推進し、いじめ抑止教育と心の育成を図るマインドフルネスを実践研究している。いじめは対処療法的や発生予防の教育が中心になりがちであるが、本校ではこの共同研究により、いじめ発祥自体を抑止する教育と苦悩・苦難を耐え抜く心を培う教育を実施している。この効果や成果等は大学を含めて検証を支援組織行っている。



① 津波被災農家に弟子入り体験



② 中学生が主導する地域防災訓練



③ 科学部の幼児向け科学教室講座



④ いじめ抑止教育の授業実践

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 週休日や夏季休業中など )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

○ 防災教育チャレンジプランHP
------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間を主に、年間指導計画を立てて実践している。指導内容の概要は、①震災と教訓を学ぶ、②復興を知る、支援する、③防災・減災の知識とスキル、行動を習得する、④学習成果を発信する、⑤実践を評価する、これらを体験的活動を中心に行っている。

①から④の実施にあたっては、その都度アンケート調査を生徒や保護者、住民等に行い、客観的なデータに基づいて成果・効果等の検証を行い、指導方法の改善に努めている。

さらに⑤では、本校は内閣府等が主催する防災教育チャレンジプランに採択されていることから、防災教育に関する専門家からも第三者評価をいただく機会を設けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

⑤ 本校では防災教育等を組織的・継続的に推進するため、町内会や消防団、民生委員、社会福祉協議会、赤十字支部、交通安全協会など、様々な地域組織団体が属する地域学校支援組織“あすと郡山”を設立し、本校の教育活動を支援していただいている。例えば、3. 活動内容（1）活動の概要②「中学生が主導する住民参加型の地域防災訓練に係わる防災教育」では、生徒が担う6班を本支援組織が各班を分担支援し、生徒の活動を支えていただいている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校の教育実践では生徒や保護者等を対象として常にアンケート調査を実施し、データに基づいて自己評価を実施している。さらに、本校の防災教育では内閣府等が主催する防災教育チャレンジプランに採択されていることから、国や大学の防災教育専門家により、第三者評価をいただいている。これらの評価からは、本校の実践が先駆的な事例であり、高い評価を得ている。そして、更なる成果や効果の向上を図るため、生徒の主体的活動の拡充を創造し、実施内容の改良を図っている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校の実践成果は、生徒や教員が積極的に外部に発信し、今年度にはユネスコスクール全国大会にて特別賞、ボランティアスピリットアワード北海道・東北ブロックにてコミュニティ賞、ちゅうでん教育大賞にて優秀賞など、様々な賞を受賞している。また、ユネスコスクール東北大会でも生徒会が学習成果をプレゼンし、2年生が仙台市中学校復興ソング等を合唱披露している。このように、成果発信により生徒たちはコミュニケーション能力を高めたり、成果の評価を受けて活動意欲を高めたりしている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

本校の実践には早稲田大学との共同研究をしたり、生徒会が主催する防災教育シンポジウムにて東北大、宮城教育大、岩手大、東北管区气象台、消防署などが講演したり、多様な団体と協働・連携しながら行っている。また、本校の校長はESD活動支援センターやESDコンソーシアムが開催する会議や大会に積極的に参加し、ESDに関する情報や連携団体情報を本校の実践に活かしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

昨年度には大阪市のユネスコスクールの生徒と教員が来校し、本校と交流を図っている。今年は、日本ユネスコ国内委員会フェローシップ事業において、主にアジア太平洋地域(うち、中国、韓国、タイとは毎年相互交流を実施)のユネスコ国内委員会事務局職員がESDをプラットフォームとした地域モデルとしての防災教育等の実践の視察のため、本校に来校している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

本校の防災教育では多彩な体験的活動体験を通じて、生徒が防災・減災の知識とスキル、行動を習得し、地域防災の担い手として期待されていると共に、その習得者が毎年卒業することにより地域に担い手が増員され、確実に地域防災力が向上している。さらに、津波被災者やその支援の体験をしたり、地域防災訓練を主導したりすることを通じて、生徒は“支えられる人”から“支える人、支え合う人”へ心と姿勢を変容させ、住民などの他者との共助の力を強めている。

- （３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

平成 30 年度の活動計画は、「①震災と教訓を学ぶ、②復興を知る、支援する」ことの実践として津波被災農家の講演や復興支援活動を行い、「③防災・減災の知識とスキル、行動を習得する」実践としては、本校生徒が小学校や地域で行う防災訓練を支援したり、本校での中学生が主導する地域防災訓練を中学生が実行したり、生徒会が防災教育シンポジウムを開催する。さらに、生徒や教育が「④学習成果を発信する」実践では、ボランティアスピリットアワードや ESD 大賞に応募したり、ジャパンレジリエンスアワードに応募したりするなど、積極的に外部への発信とその評価を受ける。また、「⑤実践を評価する」においては、実践後とのアンケート調査や東北大学等の専門的立場の方々から第三者評価を受け、実践内容とその方法等を改善と工夫を生徒と教員が共に考える。以上のような年間の活動計画を、平成 30 年度に実施する予定である。